

大仙市立大曲南中学校教諭 後藤 高仁

1. 環境教育からESDへ



「大曲南中 ESD」ポスター

本校は平成20年度から環境教育を学校教育の柱と位置付け、「考え、実践する環境教育」を進めてきた。そして、平成22年にはユネスコスクールに加盟し、これまでの取組を充実、発展させて持続可能な開発のための教育 (ESD) へと進めてきた。「ESD for 2030」に向けて、引き続き推進することが、SDGsの達成につながるものと考えている。

2. ESDとSDGs

本校の学校教育目標は、「自立 対話 貢献～広い視野をもち、互いを認め合い、地域から行動できる生徒の育成～」である。問題解決的な学習を中心に据えて、そこで得たことを生かしながら、社会的実践力の向上や「生きる力」の育成を目指している。また、各学年で教科横断的な「ESDカレンダー」を作成することで、カリキュラム・マネ

新学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語												
社会												
道徳												

ジメントの充実を図っている。総合的な学習では“Think Globally, Act Locally”の視点で、1年生が「食育」、2年生が「エネルギー教育」、3年生が「国際教育」の学年テーマのもと、関係機関と連携を図りながら、目標とする資質・能力の育成と生活への活用力を高める学習をしている。

ここで、各学年の主な活動を紹介します。

① 食育, 持続可能な生産と消費に係る学習(1年生)



生命の源となる「食」について、有機肥料を使って農作物を育て、作付けから収穫、調理までを体験し、食への意識を高めている。栽培は、給食センターの残飯を有機肥料にしたものを活用し、植え方は営農センターの

職員から、微生物の役割や有機肥料については近隣の農業高校の教員から指導を仰いでいる。また、日本で大きな問題になっているフードロスにも着目し、消費者としての心構えや、豊かな農業県に生き、それを持続していく必要性についても学んだ。



作付け作業

② エネルギー供給に係る学習(2年生)



秋田県沿岸では、豊富な風資源を利用した風力発電施設が建設されている。生徒は実際に風車を見学し、再生可能エネルギーの可能性を学びながら、持続可能なエネルギーや、その供給バランスについての考えを深めた。



風力発電所の見学

③ ICTを利用した国際教育(全学年)



スカイプを利用してオーストラリアの同世代の生徒との交流を行った。英語でお互いの伝統文化や観光地について紹介し合うほか、防災対策についても意見交換した。地震や洪水に対する備えが中心となる日本と、森林火災対策が中心になっているオーストラリアとの違いも知ることができた。国を越えて相互理解を深めるためには、会話を通して互いの地域性や文化、考え方の違いなどを広く受けとめることが不可欠であることや、英語をツールとして活用する力を高めることの大切さも感じ取っていた。



スカイプでの交流

④ 地域との連携による避難所開設訓練



全校生徒、地区内小学生、地域住民、地区内自主防災組織、介護支援事業所、大仙市中学生サミット等との連携による「水害」を想定した避難所開設訓練を実施した。地区内の住民の高齢化が進んでいる現状を踏まえ、「災害時、中学生がどのような役割を担えるのか、どう地域の方と向き合うのか。」といった課題への答えを自分たちで考えながら、避難所の設営から初期運営までを体験することができた。生徒一人一人が、気持ちの備え、行動面での備え、体制づくりの備えを身に付け、地域を支える一員としての自覚を高めることにつながった。



避難所開設訓練

⑤ 小・中協働による「大曲南地区SDGs12」



「未来につなげよう ふるさとのよさ」のテーマのもと、地区内の2つの小学校と協働で「大曲南地区版『SDGs』～南地区をよくする12個の目標」(①人がもっとたくさんいる地域に②豊かな環境と地域を守る地域に③みんなが健康で長生きできる地域に④ショッピング、娯楽のできる地域に⑤働く場所がたくさんできる地域に⑥交通が便利な地域に⑦安全で安心して暮らせる地域



小・中連携での活動

に⑧名所・名物・特産品で人を引きつける地域に⑨地域内の交流が盛んな地域に⑩農業の盛んな地域に⑪伝統や文化を将来に伝える地域に⑫勉強やスポーツが盛んな地域に)を設定した。年齢の異なる子どもたちがふるさとの現状に目を向け、それぞれの立場で未来に向けた意見を交流することで、地域の担い手としての意識を高めることとなった。

さらに、次のような活動も行っている。

〈全体に関わる活動〉

- ・各学年ESD活動発表会(学校祭で)

〈「食育」の視点からの活動〉

- ・省エネクッキング、ゴーヤ調理出前授業
- ・商店等訪問(ゴミ処理・環境保全・地産地消)

〈「エネルギー教育」の視点からの活動〉

- ・緑のカーテンプロジェクト(ゴーヤ栽培)
- ・職場体験学習(地域企業の環境対策)
- ・秋田風力発電所、総合環境保全センター見学

〈「国際教育」の視点からの活動〉

- ・国際教養大学訪問及び留学生を迎えての交流
- ・海外ユネスコスクールとの交流(電子メール)

〈地域との連携〉

- ・公園クリーンアップ、地域クリーンアップ
- ・アルミ缶・古紙回収
- ・地域行事「角間川盆踊り」「梵天」への参加
- ・地区民運動会、福祉施設事業への協力

3. 持続可能な社会の創り手の育成

生徒へのアンケート調査で、「小学校との連携や地域行事への参加により、地域の一員としての意識が高まったと思うか。」への回答が4段階評価で3.59であった。ESDの取組を通して、社会の出来事や地域への興味・関心の高まりが見て取れる。他者との関わりや学びを発信し、活用しようとする姿が多く見られるようになっている。今後一層グローバルな視点で思考し、各自の実践を持続可能な未来につなげられる生徒の育成を目指していきたい。

また、地域の課題に目を向けた「大曲南地区版『SDGs 12』」の活動は、地域を通して世界の持続可能性を考えるものとなった。SDGsが掲げる17の目標(課題)に視点を置いたESDをホールスクールで展開することで、学習指導要領の趣旨である「持続可能な社会の創り手の育成」を目指したい。